様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３４１０６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６５０３９３

研究課題名（和文）イスラーム世界における格闘技の意義　～格闘技観・勝負観・教育観・娯楽観・役割～

研究課題名（英文）The Significance of Combat Sports in the Islamic World:Pespectives on Combat Sports, Games, Education, Leisure and the Role of Combat Sports"

研究代表者
菱田　慶文（HISHIDA, YOSHIFUMI）

四日市看護医療大学・地域研究機構地域研究センター・研究員

研究者番号：６０６２５８６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：アブダビ首長国において、最も振興されていたのがブラジリアン柔術である。学校体育で導入され、男子はグレード6から１２まで（小学6年生から高校3年生まで）が必修であり、女子には選択授業として開講され、約8割の女子生徒が学んでいた。アブダビ首長国は、柔術の導入において、青少年の心の成長や健康問題の改善、さらに世界に通用する柔術選手を育成し、首長国の愛国心の高揚を期待していると考えられる。学校体育に導入されたことで、女子の格闘技に対する教育観や娯楽観に変容があったとみられる。それまでアブダビの女性は、格闘技を行う人が少なかったが、現在では、多くの女子が柔術の試合に参加することから分かる。

研究成果の概要（英文）：In the Emirate of Abu Dhabi, the Martial Art that has been promoted the most is the Brazilian jiu-jitsu, which was introduced into the physical education in schools. It is compulsory for male students from grade 6 to 12 and an elective subject for female students. Actually about 80% of them took lessons. In Abu Dhabi Emirate, the introduction of jiu-jitsu is seemingly expected to contribute to the youth’s mental growth, the improvement of their health, furthermore, the enhancement in patriotism of the emirate through developing world-class jiu-jitsu players. Its introduction into physical education is presumed to have caused some change to the women’s educational philosophy and entertainment outlook associated with martial arts. The investigation shows that a small number of women in Abu Dhabi did martial arts so far, however, at present a large number of women participate in jiu-jitsu games.

研究分野：スポーツ文化人類学

キーワード：アラブ　イスラーム　格闘技　ブラジリアン柔術　ムエタイ　学校体育　キックボクシング　民間スポーツ

１．研究開始当初の背景

アラブ首長国連邦アブダビ首長国（以下アブダビと略す）は格闘技が盛んに行われている。また、「アブダビコンバット」という組み技格闘技の世界大会のスポンサーとなり、世界中で大会を開催している。アブダビコンバットは、王子のシェイクタハヌーンの愛好から 1998 年から開催されている大会であるという情報もあった。世界中で開催される予選で勝ち抜いた選手は、渡航費や宿泊費の援助を受けるだけでなく、各階級の優勝者には、1 万ドルの賞金が出る為、世界中の組み技系の格闘家は、プロアマ問わず数多く参加している。アブダビでは、単に世界中の強豪を集めた大会を開催するだけではなく、国民にも格闘技を奨励しており、様々な格闘技に積極的に参加するように促しているとメディアでは、報じていた。そのようなアブダビの格闘技振興に注目し、アブダビで格闘技が進行されている理由を明らかにしたいと、考えたのが研究の動機である。

２．研究の目的

本研究では、イスラーム世界においてタブー視されがちな格闘技の役割及び、ムスリムが抱く格闘技の様々な価値をアブダビ首長国で実践されている総合格闘技及びアラブ・ムエタイを通して明らかにし、格闘技の担っている意義について新たな知見を目指す。1）アブダビ首長国における格闘技の捉え方を明らかにする。2）アブダビにおける格闘技の社会的役割を明らかにする。3）アブダビ首長国ムスリムの格闘技観、勝負観、教育観、娯楽観を明らかにする。

３．研究の方法

研究の方法は、文献調査と参与観察である。文献調査は、日本アラブ首長国協会や現地で発行されている日本語文献などを資料に用い、格闘技の実施状況においては、現地で参与観察を行った。格闘技のルールなどに関しては、日本語文献、英語文献の資料が既にあるため、それらを資料として用いた。現地調査では、現地イスラームの学校を調査するために教育省に許可を願い出たが、ラマダン（断食月）などが重なり、なかなか、許可が公式に下りなかったため、プライベートで親交のあるブラジル人コーチに学校での調査を願い出た所、学校での調査の許可を貰った。参与観察に訪れた期間中、幾度となく現地の学校を訪問してインタビューや映像記録した。また、学校以外では、首長国が運営している ADCC（アブダビコンバットクラブ）という格闘技専用体育館で調査を行い、空手、柔道、キックボクシング（ムエタイ）、合気道、ブラジリアン柔術、MMA(総合格闘技)の実習者にインタビューを行った。24 年には、女子柔術家の練習は、女子専用の部屋でトレーニングされていたため、調査することができなかったが、27 年には、女子の柔術選手のインタビューも行った。

４．研究成果

(1) 現地の状況

現在のアブダビは、ドバイと並んで世界的に富裕なアラブ首長国連邦の一つとして知られている。アブダビは原油の産出により、ここ数十年で急激な経済成長を遂げた国であり、短期間で砂漠の国から高層ビル群がそびえる国に変貌した。このようなアブダビでは、現在、肥満による健康問題が指摘されるなど、先進諸国にありがちな問題を抱えている現状であった。

様々なインタビューの中でよく聞かれたのは、「昔のアブダビ人は、強かった」という言葉である。例をあげると「昔の

アブダビ人は、水なんてそんなに飲まなくても砂漠で何日間も過ごしていた」、「今のアブダビの若者は、エアコンで身体が弱くなった」、「今の子どもは、ショピングセンターで甘いお菓子ばかり食べているから肥満児が多い」等である。このように昔と今とを比べて弱くなったアブダビ人を嘆く現地アブダビ人や長期滞在する外国人の語りが聞かれた。アブダビの変遷を綴った『ボロをまとった暮らしから一世代で裕福に～アブダビの奇跡物語～』1995 には、アブダビ人の暮らしが、ここ数十年間で激変したことが詳しく記されている。それによると、アブダビに初めて飲料水の脱塩プラントが創られたのは 1961 年であり、それまでは塩気のある井戸水を飲料水としていた。また医療に関しても、アブダビに初めて病院が立てられたのは、1967 年であった。その頃のアブダビ人は、風呂の代わりに海水で身体を洗い、デーツ椰子の葉で作られたバラスティーという家に住んでいたと書かれている。18 世紀の暮らしから急激に現代を代表するような近代国家に激変したのがアブダビである。

現在のアブダビに居住する現地人は 2 割であり、その他の 8 割は他の国籍である。特に労働者の多くは、フィリピンやバングラディッシュ、インドなどの貧しい国からの出稼ぎ労働者であり、現地の警察官などは、近隣のエジプト人などが勤めている状態である。一方で現地アブダビ人は、非常にハイクラスな生活をすることになり、特権階級であるような状況であった。

（2）アブダビの格闘技の現状

アブダビの王室では、アブダビコンバットという大会を定期的に開催しているのは前述したが、アブダビコンバットとは、組み技の大会の名前であって、世界中に浸透しているような競技ではない。アブダビで最も盛んな格闘技は、ブラジリアン柔術であり、次に柔道、MMA（総合格闘技）レスリング、ムエタイ、キックボクシングという順に人気があると言う現状であった。これらの格闘技は、首長国が建設したアブダビコンバットクラブ（ADCC）という格闘技専門体育館で毎日の様にレッスンが行われている。2009 年までアブダビ人のレッスン料はすべて無料であったが、現在は徴収されるように変更された。1 ヶ月の授業料は、ブラジリアン柔術が 1000DHS（約 3 万円）、レスリング、ムエタイ、キックボクシングは、300DHS （約 9000 円）支払えば、レッスンに参加できる。「何故、柔術が他の競技に比べ 3 倍も高いのか？」と現地人に尋ねると「柔術は、覚える技が多く、一度に大人数を教える事が困難であるため」と言う。

ブラジリアン柔術は、王子が奨励している格闘技で首長国内で最も人気のあるスポーツである。アブダビ人で国際大会の幾度か入賞経験のあるアハマッド選手（30）によると「王子は、毎日 3 時間の練習を欠かさずしている」「ブラジルから有名選手をコーチとして何度も招いている」との事である。アブダビの公立小中学校では、グレード 6 ～12（小学校 6 年生～高校 3 年生）までは、男子の必修体育として、週に一回のブラジリアン柔術の授業がカリキュラムに組み込まれ、女子にも選択制ではあるが、授業が組み込まれていると言う。キックボクシングにおいては、チュニジアから指導者を招き、軍隊と ADCC でクラスが開講されていた。しかし、そのレベルは決して高いとは言えない。実習者のほとんどは、ダイエットが目的で入会していることが多く、また、キックボクシングを練習している現

地の駐在員によると「裕福な人は、続かない傾向にある。また、ジムのメンバーも入れ替わりが激しく、半年ぶりぐらいに行くと、全く知らないメンバーになっている」と言う。ADCC でのキックボクシング実習者の現地アブダビ人比率は低く、試合への出場を表明する様な、競技への積極的な参加の意思を見せる実習者は、UAE 国籍以外の近隣諸国のレバノン、イエメンやシリア人などが目立った。

前述したように、アブダビで最も盛んな格闘技は、ブラジリアン柔術であった。その理由は、王子が奨励し、学校体育に組み込まれているだけでなく、ブラジリアン柔術の安全性にも理由があるようである。現地調査と並び、日本でもブラジリアン柔術の特性を調査すると、柔道から生まれた競技ではあるが、試合時間の殆どが寝技であり、投げ技が少なく、ケガが少ないという特性が明らかになった。

（3）ブラジリアン柔術の普及後

アブダビ教育評議会（Abu dhobi Education Council）でのインタビューによると、柔術プロジェクトは 2008 年から始まったという。当初はグレード 6 と 7 の 14 校、約 4,200 人の生徒を対象に、ブラジルから招いた 25 人以上のインストラクターがプロジェクトに参加。2009 年には 42 校、約 7,800 人の生徒、70 人以上のインストラクター、2011 年および 2012 年には 46 校（内、男性対象 36 校、女性対象 10 校）、約 10,800 人の生徒、79 人以上のインストラクター（内、女性インストラクターが 15~17 人）が指導のためにブラジルから招聘された。

このようにブラジリアン柔術は年々、競技人口が伸びていく傾向にある。もちろん学校体育のカリキュラムに組み込まれているのだから当然であるが、ブラジリアン柔術の競技人口の伸びは、単にカリキュラムに組み込まれているだけではない。ブラジリアン柔術の普及は、アブダビの王室が力を注いでいるだけに、小中学校では、校内大会だけにとどまらず、地域大会、ガルフ湾大会、国際大会など国を挙げての幅広い参加が奨励されている。校内大会で頭角を現すと地域の大会に出場し、また、その規模よりも更に大きな規模の大会が開催され、積極的に参加するように促されている。大会は、子どもの試合でさえ、アブダビのテレビ局で放送され、勝利者には、ヒーローとしての栄光を与えられて行く。また、アブダビ政府は、日本の小中学生も大会に招聘し、アブダビの小中学生達と試合ができるようなプログラムが用意されている。大規模な大会で活躍した選手や優勝した選手は、王族からトロフィーを授与されたり、新聞誌上でその活躍を称えられるなどの栄光が待ち受けている。

なお、プログラムを開始した頃は、女性にブラジリアン柔術を教えることは難しく、特に、寝技の指導は、大変困難であったと言う事であった。また、柔術導入初期には、女子選手の練習すら男性講師は、見ることは出来なかった。アブダビでは女子と男子は、同じ場所で運動をすること慣習がなかったからである。しかし、先のインタビューからも分かるように、2011 年頃から徐々に学校教育のカリキュラムが改善されてきているという状況であり、現在では、女子選手も同様なプログラムで構成され、女子選手の試合の様子もテレビで放送されるようになった。柔術プログラム導入初期が始まった 2008 年から現地で指導しているマルセロ師範（40 歳）は、「私が、アブダビに来た頃は、女性が柔術をやるなんて、考えられなかったみたいです。シェイクタハヌーンが変えたのですよ。」と言った。

イスラームの世界において、女子スポーツは、様々な国で様々な考えがあることは知られているが、以前のアブダビでは、女性がスポーツに参加するという事は、あまり一般的ではなかったようである。同じく、アブダビで女子生徒を指導するブラジル人のヴィヴィアン師範（32 歳）は、「アブダビに 6 年間いて、5 年柔術を教えています。すべての母親に同意書を書いてもらい柔術の授業に参加させます。もちろん、時々、柔術への参加を拒む生徒もいます。女子生徒は、運動経験がなかったので、教えるのは、大変でしたよ。」同じく、アレクサンドラ師範（30 歳）は、「こちらで 1 年間教えていますが、親が柔術を許可しなかったケースは、まだありません。生徒が嫌がってやらなかったケースはあります。」と答えた。

学校体育を終えた後にもブラジリアン柔術をしている女性、アシュワーク（16 歳）、ハジャ（18 歳）アヤ（16 歳シリア人）にインタビューを試みる。彼女たちは、「両親に勧められて柔術をするようになった」と語る。さらに、「ＵＡＥの大半の女性は、スポーツをするのに賛成である」とも語った。昔は、女性がスポーツするなんてと言った人がいたらしいが、現在は、王子のシェイクタハヌーンが勧めているものを国民の多くが賛成しているとの事である

学校体育では男子生徒は、ブラジリアン柔術を必修とするが、女子生徒は、選択制になっているという。しかし、彼女らによると「女子生徒の 80 パーセントがブラジリアン柔術を選び、20 パーセントがバスケットなどをやっている」と言う。筆者が 3 人の女性に「練習風景をビデオ撮影してよろしいですか？」と聞くと笑顔で「もちろんですよ」と答えた。さらに、「柔術は、グレード 6 からグレード 9 までしかできないから、私達は、ＡＤＣＣに習いに来ているのです。」と言った。

ザイード大学で女子生徒に空手を指導していた日本人女性によれば、UAE の女性は、少なからず、運動を嫌がる女性がいたと言う。理由は、処女膜が破れるからである。しかしながら、アブダビでの女性スポーツ参加は、珍しい事ではなく一般的なケースに見られるようなってきているのである。13 歳の娘の試合を応援に来ていた父親にインタビューを試みると、「シェイク王子が奨励してから、女性のスポーツ認識は、変わった」と言う。娘の母親（37 歳教師）は、「私たちの時のスポーツは、ただ、歩くだけでした。何もありませんでしたよ」と答えた。筆者らが、「信仰が変わったのですか？」と尋ねると彼らは、「変わったのは、信仰ではなく、スポーツへの意識が変わったのです」と語った。

アブダビ教育評議会にて格闘技振興のアドバイザーを務めるライアン氏（38 歳カナダ人）は、「シェイクが奨励したら、すぐに女性もブラジリアン柔術を始めました。その効果で他のスポーツも女性が増えたと思います」と説明してくれた。

（4）　まとめに変えて

現在、アブダビにブラジリアン柔術が導入された 2008 年より 7 年の歳月が経過した。現在の、アブダビのブラジリアン柔術のホームページによれば、「100 校以上の公立の学校でブラジリアン柔術は、教えられ 40000 人以上の少年少女の役にたっている」と記されている。

これらや、筆者らが行った現地のインタビューでは、「アブダビにおいて、女性に柔術を普及することで、女性のスポーツ観が変わった」という印象を受けるが、これについては、更に深い調査が必要と

考える。

アブダビ柔術の実力の向上に関しては、日本人柔術師範（45）は、「アブダビ人のレベルは、日本人柔術家と同レベルの実力を持つ」と語る。もちろん、日本人柔術家のレベルは、柔道をベースに持っているだけに低くはない。技術以外の人格陶冶や心の修養については、データを入手するのが困難であるが、現地の中学生に指導するマルセロ師範（40 歳）に尋ねたところ、子どもたちの生活態度は、年々、よくなってきていると話す。ブラジリアン柔術を教えて子どもが変わってくることは、１.態度、２.自尊心、３.良い食べ物を食べて健康志向になること、４.自分の能力をもっと高めようと思う事などであると言った。国際大会で活躍するアブダビ人の柔術家も同様に、柔術をすると行動がかわり、人々を尊敬するようになると述べている。これらは、師範や柔術愛好家の主観で語られており、さらに踏み込んだ調査をしなければならない。しかしながら、国民も指導者達も柔術普及に関して、何らかの効果を感じているようである。

アブダビでは、ブラジリアン柔術の導入において、青少年の心の成長や健康問題の改善、さらに、世界的に通用するスポーツ選手を育成し、首長国の愛国心の高揚を期待していると考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

「アブダビ首長国における格闘技振興」
<u>菱田慶文　柴山信二朗</u>
平成 27 年 7 月
日本アラブ首長国連邦協会 N058

〔学会発表〕（計１件）

「アラブ首長国連邦アブダビ首長国における格闘技振興～国家プロジェクトとしての格闘技振興政策」平成 25 年 8 月
日本体育学会立命館大学

６．研究組織

(1)研究代表者

菱田　慶文（Hishida,Yoshifumi）
四日市看護医療大学・地域研究機構・地域研究センター・研究員
研究者番号：60625862

(2)研究分担者

柴山　信二朗（Shibayama,Shinjiro）
帝京平成大学・現代ライフ学部・講師
研究者番号：40572235